図書館に関する話題 第6回 文系図書購入

文系図書の紹介

「フロイト全集」について

教育学部准教授　田上　恭子

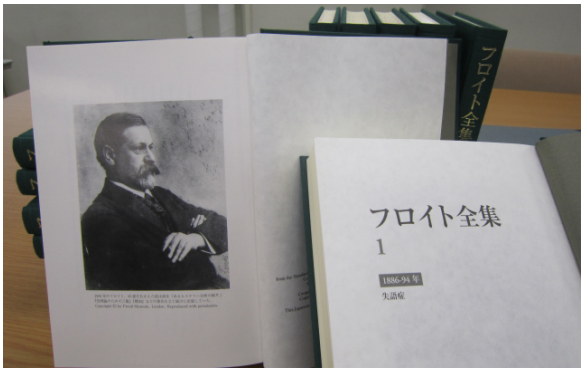
皆さんご存知かと思いますが，フロイトは無意識の発見，精神分析の創始者として広く知られています。フロイトの理論や臨床については，医学，心理学，哲学など非常に幅広い分野で論じられていますし，精神分析「学」とも言われるように，幅広い分野と関わりのあるひとつの学問体系であると思います。特に無意識や自我や防衛機制といった「心」に関する理論は，誰もが一度は耳にしたり触れたりしたことがあるのではないでしょうか。また心理的な治療・援助としての精神分析は，現在の心理療法の源のひとつであると位置づけられてもいます。わが国のカウンセリングや心理療法の基本原則とされているものの中には，フロイトの理論と臨床に基づくものも少なからずあると考えられます。

しかしながら，フロイトの理論，精神分析は多方面から批判されているのも事実です。実証が困難・不可能である彼の理論は科学的ではないという考えは，科学論などでひきあいに出されることが多いようですし，心理学の基礎的なテキストでもよく批判的に紹介されています。さらに，わが国においても，カウンセリングや心理療法などの心の治療・援助においてエビデンスが求められ，またできるだけ短期的成果が求められる昨今，長期的でエビデンス・ベイストではない精神分析的なアプローチを，役に立たない，意味のないものと捉えるのはある意味もっともなことなのかもしれません。

私自身は心理学が専門で，臨床心理学は専門のひとつではありますが，精神分析の専門家ではありませんし，フロイトの著作についてもそれほど目を通しているわけでもありません。ただ最近思うのは，よく知っているわけではないのに単に批判で終わってしまうのはもったいないなあということです。自身の感覚でフロイトの考え・思い，人となりを受けとめてみること，そしてそれを通して自身のあり方や専門性を問い直してみることは，決して無駄ではないと思います。

これまでもフロイトの数々の著作は翻訳されていましたが，このたび新たな翻訳が施され，また初めて紹介される多くの論考も含まれている「フロイト全集」が出版され始めたのを機に，本学にも附属図書館文系図書予算によって整備していただくことになりました。臨床心理学等を専門とする方のみならず，人々と関わることに関心があったり，「心」というものに関心を持っていたりする方は，是非一度手にとられてみてはいかがでしょう。「フロイトを学ぶ」ことではもちろんですが，「フロイトを通して学ぶ」ことで，新たな発見・気づきが必ずあると思います。

（たがみ　きょうこ）



田上先生にご紹介いただいた「フロイト全集」は、本館で所蔵しています。

所在：本館新書庫２層開架
請求記号：146.13/F46/1　他